

## いつも何度でも

## 「千と千尋の神隠し」のED

よ 呼んでいる 胸<sup>むね</sup>のどこか奥<sup>おく</sup>で  
いつも心<sup>こころ</sup>踊<sup>おど</sup>る 夢<sup>ゆめ</sup>を見<sup>み</sup>たい

かな 悲<sup>かな</sup>しみは 数<sup>かず</sup>え切<sup>き</sup>れないけれど  
その向<sup>む</sup>こうでき<sup>き</sup>つと 貴<sup>あなた</sup>方<sup>あ</sup>に会<sup>あ</sup>える

く 繰<sup>かえ</sup>り返<sup>あやま</sup>す過<sup>たび</sup>ちの その度<sup>ひと</sup> 人<sup>ひと</sup>は  
ただ青<sup>あお</sup>い空<sup>そら</sup>の 青<sup>あお</sup>さを知<sup>し</sup>る  
果<sup>は</sup>てしなく 道<sup>みち</sup>は続<sup>つづ</sup>いて見<sup>み</sup>えるけれど  
この両<sup>りょうて</sup>手<sup>て</sup>は 光<sup>ひかり</sup>を抱<sup>いだ</sup>ける

さよならのとき<sup>しず</sup>の 静<sup>むね</sup>かな胸<sup>むね</sup>  
ゼ口<sup>からだ</sup>になる体<sup>みみ</sup>が 耳<sup>みみ</sup>をすませる

い 生<sup>い</sup>きている不<sup>ふ</sup>思<sup>し</sup>議<sup>ぎ</sup> 死<sup>し</sup>んでいく不<sup>ふ</sup>思<sup>し</sup>議<sup>ぎ</sup>  
花<sup>はな</sup>も風<sup>かぜ</sup>も街<sup>まち</sup>も 民<sup>みな</sup>な同<sup>おな</sup>じ

よ 呼<sup>よ</sup>んでいる 胸<sup>むね</sup>のどこか奥<sup>おく</sup>で  
いつも何<sup>なん</sup>度<sup>ど</sup>でも 夢<sup>ゆめ</sup>を描<sup>えが</sup>こう

かな 悲<sup>かな</sup>しみの数<sup>かず</sup>を 言<sup>い</sup>い尽<sup>つ</sup>くすより  
同<sup>おな</sup>じくちびるで そ<sup>うた</sup>っと歌<sup>うた</sup>おう

と 閉<sup>と</sup>じていく思<sup>おも</sup>い出<sup>で</sup>の そのなかにいつも  
わす 忘<sup>わす</sup>れたくなく さ<sup>さ</sup>さやき<sup>き</sup>を聞<sup>き</sup>く  
こなごなに砕<sup>くだ</sup>かれた 鏡<sup>かがみ</sup>の上<sup>うえ</sup>にも  
あたら 新<sup>あたら</sup>しい景<sup>けしき</sup>色<sup>しき</sup>が 映<sup>うつ</sup>される

はじ 始<sup>はじ</sup>まりの朝<sup>あさ</sup>の 静<sup>しず</sup>かな窓<sup>まど</sup>  
ゼ口<sup>からだ</sup>になる体<sup>み</sup> 充<sup>み</sup>たされてゆけ

うみ 海<sup>うみ</sup>の彼<sup>かなた</sup>方<sup>た</sup>には もう探<sup>さが</sup>さない

かがや  
輝くものはいつもここに  
わたし  
私のなかに 見つけられたから

いつも**なんど**でも  
何度

「**せん**と**ちひろ**の**かみかくし**」のED  
千 千尋 神隠

よんでいる **むね**のどこか**おく**で  
呼 胸 奥  
いつも **こころ**おどる **ゆめ**を**みたい**  
心 踊 夢 見

かなしみは **かぞえ**きれないけれど  
悲 数 切  
その**む**こうできっと **あなた**に**あえる**  
向 貴方 会

**くりかえ**す**あやま**ちの その**たび** **ひと**は  
繰 返 過 度 人  
ただ**あおい****そら**の **あお**さを**し**る  
青 空 青 知  
**は**てしなく **みち**は**つづ**いて**み**えるけれど  
果 道 続 見  
この**りょう**ては **ひかり**を**い**だける  
両手 光 抱

さよならのときの **しず**かな**むね**  
静 胸  
ゼ口になる**からだ**が **みみ**をすませる  
体 耳

いきている**ふしぎ** **しん**でいく**ふしぎ**  
生 不思議 死 不思議  
**はな**も**かぜ**も**まち**も **みんな****おなじ**  
花 風 街 同

よんでいる **むね**のどこか**おく**で  
呼 胸 奥  
いつも**なんど**でも **ゆめ**を**えが**こう  
何度 夢 描

かなしみの**かず**を **い**い**つ**くすより  
悲 数 言 尽  
**おなじ**く**ちび**るで そっとう**た**おう  
同 歌

とじていく**おも**い**で**の そのなかにいつも  
閉 思 出  
**わす**れたくない ささやきを**き**く  
忘 聞

こなごなにくだかれた かがみのうえにも  
砕 鏡 上

あたらしいけしきがうつされる  
新 景色 映

はじまりのあさの しずかなまど  
始 朝 静 窓

ゼロになるからだみたされてゆけ  
体 充

うみのかなたには もうさがさない  
海 彼方 探

かがやくものはいつもここに  
輝

わたしのなかに みつけられたから  
私 見